



Design



～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟広報誌Design号外51号です。地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れした事例の紹介と5月の問い合わせ状況の報告です。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れした事例の紹介（第49回）

～リフレッシュできました～



当院脳神経内科に定期的に通院中の患者さんで、褥創処置のため当院の訪問看護師も関わっています。奥様が介護をしておられますが、介護保険でのサービスが利用できない夜間の介護負担が特に大きく、困っておられました。特養への入所申込みはされていますが、特養入所までには長期の待機があり、先の見通しが立たないことへの不安も大きいようです。

そのような状況の中、当院の訪問看護師から疲労解消のため、介護施設でのショートステイや当院の地域包括ケア病棟“彩り”を利用してはどうかと奥様に提案させて頂きました。奥様は担当ケアマネジャーと相談し、介護施設でのショートステイの利用を検討されましたが、新型コロナウイルス感染防止のため受け入れしてもらえないショートステイ先が見つからず、地域包括ケア病棟“彩り”へ入院されることになりました。

入院中は、脳神経内科や皮膚科を受診して頂き、通院のご負担も軽減することができました。退院時に、奥様より「リフレッシュできました」とのお言葉をいただきました。

当院の訪問看護師が介入していることで、患者さんの状況や思いをより把握しやすいと感じた事例です。今後も訪問看護師と情報を共有しながら、必要に応じて地域包括ケア病棟“彩り”の利用を提案できればと思っています。（地域医療連携室 ソーシャルワーカー 松田 辰基）

昼食前の集団体操を再開しました

～新たなスタイルで～



地域包括ケア病棟“彩り”では、昼食前の集団体操を新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止していましたが、緊急事態制限が解除されましたので、5月25日より再開しました。

再開に際し、患者さん同士の間隔を空け、椅子の配列は輪にはならず講義形式の、新たなスタイルです。患者さんの入院生活の質が向上することを願っています。

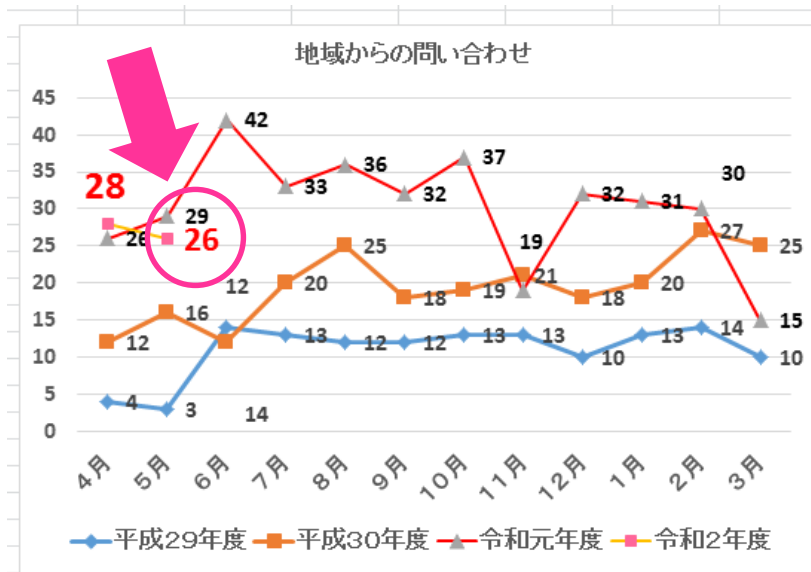
夏期休暇中も受け入れします。

～ お気軽にお問い合わせ下さい ～



例年のこととなりますが、夏期休暇の期間中も、地域包括ケア病棟“彩り”では患者様の受け入れを行っています。夏期休暇のため一時的に在宅医療が途切れる場合やご家族の介護負担の軽減が必要な場合、様々な事情で介護施設のショートステイの利用が困難な場合などにご利用ください。

令和2年5月の問い合わせ状況について



5月は、26件の問い合わせを頂戴しました。

地域のケアマネジャーの方から、ご家族の負担軽減のための入院のご相談の他、他医療機関のソーシャルワーカーの方から、治療終了後のリハビリ目的などの入院のご相談もありました。

引き続き、よろしくお願いいたします。 (南出)

地域医療連携室より

～ “今” を意識して ～

4月、ローリングストーンズが「Living in a ghost town」という新曲を配信リリースしました。1年以上前に作りかけていた曲だったそうですが、曲の内容が、新型コロナウイルスで世界中がロックダウンしている“今”を反映しているため、リリースしようと思い立ち、急遽メンバーで仕上げたそうです。80歳近くなっても、“今”を意識して活動しているローリングストーンズって格好良いと思いました（もちろん、曲も格好良いです）。

*

日頃から、“今”を意識しながら業務するよう心がけています。中井院長からも、“今”を意識することの大切さを教えて頂くことも多いのですが、“今”を意識すると、すべきことが明確になり、結果的に業務が効率よく行えるように感じています。

今すべきことは、患者さんや地域住民の皆様にも、安心して当院を受診して頂くことです。そして、当院の取り組みを皆さんにお知らせすることが、患者さんや地域住民の皆様への安心につながるのではないかと考えています。引き続き、“今”を意識しながら業務するよう心がけていきたいと思っています。(地域医療連携室 室長 南出 弦)